
授業中

柳川

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

授業中

【Zコード】

Z6543D

【作者名】

柳川

【あらすじ】

大人なのか子供なのか。そんな授業中の葛藤を書いてみました。

午後の授業が始まった。

食後のこの時間帯、教師がいくら頑張ろうとも結局は独り相撲。

隣と話してゐる

ヤツ、うとうとしてゐるヤツ、内職に勢を出すヤツ。

そんなヤツらを一番後ろの列に座るわたしは心の中で叱責する。

授業は真面目に聞くのは当たり前。やつづきながらもサボつてしまいたい自分がいる。

素直じゃなくなつたな…。

高校2年生。17歳。大人なのか子供なのか。最近そんなことを考
える。

髪を薄茶色に染めてみた。すこしショーブもかけてみた。

でも、何も変わらない。

ふと横を見る…。

ここつ…。

教科書を枕代わりに机につつ伏せになつてゐる。

「橋本、お前もこいつやってみるよ。」

伏せたまま白石が『シシシ』と歯を出して微笑む。

「授業中だから……」

わたしは軽く返事をした。
やつぱり素直じゃないな。

「いいからさ。

小さな声が帰ってきた。

ふと窓を覗く。

昔と変わらない青空、田の雲。田を細めて、じつと眺める。

昔と同じ……。昔から変わらないこいつ。結局わたしだけが先走っていた。
わたしはまだまだ若い。子供……。

なつた気がした。こいつに身を任せちゃう。

『はつ』

伸びをして、教科書をぱたっと閉じる。快音が響く。

机にうつ伏せになつて白石の方を見て『シシシ』って歯をだし笑つてみた。

作り笑いではない。胸の奥底からさわやかな、さわやかな。

白石が延ばした手にわたしの手を重ねる。自然な流れ。心地よい。
一人同時に『シシシ』って笑う。やさしく。あたたかく。

これから何かが変わる。きっと。きっと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6543d/>

授業中

2010年10月24日14時00分発行